文部科学省 地(知)の拠点　平成25年度　文部科学省「地(知)の拠点整備事業」

To-Collabo通信（トコラボ）

Tokai University Community linking laboratory

vol. 6

地域志向教育研究経費採択課題の中間報告会を開催

2014年度地域志向教育研究経費採択課題の中間報告会を、11月22日に熊本校舎で開催しました。東海大学では、全国にキャンパスが広がる本学ならではの「全国連動型地域連携活動」を柱として、各地域特有の問題や全国共通の課題に対する解決策を見いだすことを目的に、「To-Collaboプログラムによる全国連動型地域連携の提案」を、平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」の採択を受けて展開しています。その一環として全学の教員から、地域デザイン、ライフステージ・プロデュース、観光イノベーション、エコ・コンシャスの４計画８事業の枠組みに沿うプロジェクトを募集し、採択された取り組みに「地域志向教育研究経費」を支給することでその活動を支援しています。報告会には採択課題の代表者や本学の教職員、本プログラムで連携している行政機関や企業・団体の関係者、地元のメディアなど約150人が参加しました。

第１部では32件のプロジェクトの研究代表者が、採択課題の概要やこれまでの教育・研究の成果、今後の計画などを５会場に分かれて報告。さまざまな専門分野や行政・企業の視点から、改善に向けたアドバイスやよりよい活動を展開するための工夫が議論されました。続く第２部のシンポジウム「高等教育機関における実践型教育と情報化」では、まず九州大学大学院システム情報科学研究院の荒木啓二郎副研究院長(教育担当)が講演。企業や他大学などと連携し、世界最高水準のソフトウェア技術者の養成を目指して2007年に九州大学大学院に開設された実践型教育プログラム「社会情報システム工学コース」の概要や教育的な効果、連携を続けるうえでの課題などを紹介しました。

その後、荒木副研究院長に、本学農学部卒業生で熊本県教育委員会委員長を務める木之内均氏(木之内農園代表取締役会長)、岡田工教授(チャレンジセンター主任)を交えてパネルディスカッションを実施。中嶋卓雄学長補佐(九州キャンパス担当)がコーディネーターを務め、社会的なニーズに応えられる実践型教育のあり方や効果を高める方策、IT技術の活用法などについて、活発なディスカッションが展開されました。

来場者からは「プログラムの全体像を理解することができました。今後は地域の抱える課題を、これまで以上に積極的に伝えていきたいと思います」との声が聞かれました。また採択研究の発表を聞いた教員からは、「発表を聞いて、採択課題相互の連携もできると考えるようになりました。情報交換を図りつつ、さまざまな可能性を検討していきたい」との感想が述べられました。

◀専門分野横断型の多彩な研究が紹介され、活発な議論が行われた中間報告会

▶荒木副研究院長の講演では、教育成果の客観的評価や、社会情勢の変化にとらわれず企業などとの連携を継続することの難しさといった課題も語られました

アメリカのパブリック・アチーブメントに関する研修を受けました

◀オーグスバーグ・カレッジ近隣の小学校で開かれたタウン・ホール・ミーティング

▶ジョージタウン大でのプログラムの受講生との面談

11月２日から９日まで、アメリカのパブリック・アチーブメント（PA）の取り組みに関する視察と研修を行いました。本学ではTo-Collaboプログラムの一環として、理論と実践を融合した「パブリック・アチーブメント型教育」の実現に向けたカリキュラム改革の準備を進めています。今回の視察は、具体的な授業内容を検討する際の参考資料の収集を目的に行ったもので、教学部の内山秀一次長（体育学部）を団長に教職員８人が参加しました。

11月３日から５日にはオーグスバーク・カレッジで、コミュニティの課題に市民と教職員、学生が連携して取り組む手法や授業の進め方などついての講義を受講。参加している教職員や学生と意見交換をしたほか、PAの手法を用いて開かれているタウン・ホール・ミーティングや小学校でのPAの取り組みにも参加しました。

その後、ジョージタウン大学とメリーランド大学ボルチモアカウンティ校を訪問。教職員から両大学での取り組みについて講義を受け、受講生とも面談しました。

内山次長は「挑み力や成し遂げ力といった社会人基礎力を養ううえで、PAが有効であることをあらためて確認できるとともに、実際の手法についての理解を深められました。今回の成果を学内に広く還元するとともに、カリキュラムの改革案を練り上げていきたい」と話しています。

なお１月には湘南校舎で、PAに関するFD研修会を開催する予定です。

地域貢献を柱に据えた実践型教育プログラムを学ぶ研修会を開催

12月8日に湘南校舎で、教職員向け研修会（FD研修会）「地域における実践型教育プログラム（PBL&SL）の取組～地域活動におけるジェネリック・スキルの養成について～」（主催＝To-Collabo推進室、教育支援センター）を開催しました。当日は北九州市立大学地域創生学群長の眞鍋和博教授（地域共生教育センター長）が講師を務め、テレビ会議システムを使って、札幌や熊本などの8校舎と東海大学福岡短期大学にも配信され、約70人が参加しました。

眞鍋教授は、2009年に北九州市立大学に開設された地域創生学群の教育プログラムを紹介。北九州市が抱える高齢化や町の美化、防犯といった幅広い問題に取り組む約60のプロジェクトの中から、学生自身が希望するものを入学時に選んで参加し、目標設定シートや教員との面談、研修などを受けながら社会人基礎力を養っていくことを説明しました。

このプログラムにおいては基本的なマナーを徹底し、チームティーチングによるきめ細かい指導を行っていること、学生の自主性を尊重しつつ教員が適度な距離感を持って指導するよう心がけていることを解説。過去5年間の教育を通じて自ら課題を発見し、計画を立案する力やコミュニケーション力の向上が見られ、学生の満足度も高く、卒業生の就職率も100％であるといった成果が挙がっていることが紹介されました。

その後、学生の成績評価の基準などについて質疑応答を実施。学生の作成する企画書の完成度や活動への積極性を指標としていることが説明されました。

2014年度「地域志向教育研究経費」(タイプ2) 採択研究の紹介

「To-Collaboプログラム」では、地域の活性化や地域への貢献につながる研究に対し、「地域志向教育研究経費」を助成しています。2014年度からは、2人以上のメンバーで行う「タイプ1」と、5人以上のメンバーかつ所属組織と地域を横断している「タイプ2」の2タイプを新たに設定。学内を対象に公募したところ52件の応募があり、このうち32件を採択しました(研究期間は2015年3月31日まで)。今号では今年度の「タイプ2」に採択された9件のうちの3件を紹介します。

代々木校舎

広域観光のデスティネーション・マネジメントを通じた地域振興

研究代表者:観光学部観光学科／**松本亮三** 教授

観光業界では近年、「着地型観光」という考え方が広がっています。これは、観光客を受け入れる側が地域の多様な資源を活用し、体験型・交流型の要素を取り入れた旅行商品を開発するものです。本研究では、湘南・代々木の観光学部、札幌の国際文化学部、熊本の経営学部の教員が、各地の異なった観光資源をテーマに、着地型観光を組織的・統合的に推進する「デスティネーション・マネジメント」(DM)の手法を、産官学連携のもとで広域的かつ実証的に研究することで、地域振興につなげる取り組みです。

観光学部が大山など多様な文化観光資源を持つ「丹沢湘南地域」を、国際文化学部が札幌市内で産出される歴史的建築材「札幌軟石」を、経営学部が豊富な自然を誇る「阿蘇カルデラ南部地域」を対象に設定。それぞれに観光商品の開発やモニターツアーの実施、セミナーの開催など積極的に活動を展開しています。

参加教員はテレビ会議システムで定期的に報告・検討会を実施しており、12月21日には諸活動を総括する全体シンポジウムも開催。地域振興の方法を総合的な視点から検討するTo-Collaboならではの「全国連動型地域連携活動」となっています。本研究は対象地域以外でも、観光・地域振興に寄与できる点が多く、さらに学生を参加させることでフィールドワークの場が充実し、地域志向教育への効果は高いと考えています。

湘南校舎

多世代コミュニティとの交流機会を広げるための実践研究

研究代表者:チャレンジセンター／**岡田 工** 教授

高齢社会が進む中、生き生きとした老後を送るために大学で学んだり、大学生と接するといった、多世代コミュニティ間の交流が注目を集めています。アメリカではすでに、スポーツや教養講座といった学生も参加する大学のイベントを高齢者の健康寿命の維持に役立ててもらう「Continuing Care Retirement Community」(CCRC)という取り組みが始まっており、一定の効果を上げつつあります。

本研究では、東海大学が市民向けの生涯学習機関として2000年に開設したエクステンションセンターと連携し、CCRCを参考にしつつ大学の独自性を生かし、地域のニーズに合った講座の提案を目指しています。

札幌と高輪、湘南、熊本の各校舎で地域連携活動に携わっている教員や経営の専門家が参加。採択前に行ったCCRC視察の成果や、同センターが過去に開講した講座の受講生を対象にしたアンケートの分析を進めています。さらに、各校舎で学生が取り組んでいる地域連携活動についても情報を集めていくことで、学生と地域の住民が交流しつつ教養を深められる講座の可能性も検討しています。

今後は各校舎の近隣住民を対象にしたアンケートを実施してニーズを調査するとともに、他大学での取り組みも視察し、多角的な視点から高齢社会に合った新しい地域連携のあり方を提案していく予定です。

湘南校舎

市民工房 Fab·Tokai 設立プロジェクト

研究代表者:工学部機械工学科／**落合成行** 准教授

東海大学には、高い性能を持つ3Dプリンターやレーザーカッターなど、ものづくりに利用できる機械が数多く存在します。本プロジェクトではそうした機器を活用した市民工房「Fab・Tokai」を設立し、幅広い年代にものづくりの楽しさを伝える教育プログラムを開発することを目指しています。また、プログラムの開発や運営の一部を学生に担ってもらうことで、これからの工学系人材に欠かせないコミュニケーション力やマネジメント力の育成にもつなげたいと考えています。

すでに湘南校舎12号館に「ものつくり工房」を開設。11月1日から3日には、近隣の小中学生向けの「ものづくり体験教室」を開きました。現在は、そこで集まった声や改善点などを分析しており、今後も定期的にイベントを開いてプログラムの充実に役立てていきたいと思っています。

それと並行して、基本のプログラムを応用しつつ札幌校舎や高輪校舎、熊本校舎の特色を生かした取り組みも進めていく考えです。

将来的には地域の方からの依頼を受け付け、ものづくりのお手伝いをする地域貢献などにもつなげたいと思います。

大学で芸術の魅力にふれる シニア向けの連続講座を開く

芸術による大学開放を目的とした多世代交流の創出
研究代表者：池村明生教授（教養学部芸術学科）

教養学部芸術学科主催の「大学で学ぶ、芸術を学ぶ。東海大学芸術学科公開講座」を、11月8日から29日まで湘南校舎で開講しました。音楽、美術、工芸の3講座をそれぞれ4回シリーズで開講し、校舎近隣の50歳から86歳までの25人が参加。「クラシック音楽をわかって楽しむ」と題した音楽講座では、二宮洋教授（音楽学課程）らがピアノの演奏を指導。美術講座では「銅版画の世界と作品制作」として、河野孝博教授（美術学課程）らが銅版画制作の実習授業を展開しました。また、工芸講座は「日本の美と陶芸下絵付け体験」と題し、森本忠夫准教授（デザイン学課程）らが陶芸制作と下絵付けの実習を担当。最終日の修了式で、受講者に修了証書を手渡しました。

専門分野を生かして 中学生に身近な法律や制度を教える

秦野市立中学校で行う動植物の保護に関する法教育授業講座
研究代表者：石田清彦教授（法学部法律学科）

法学の魅力を専門家が紹介する「法教育授業」を、11月12、13日に秦野市立大根中学校で開きました。日常を取り巻く法律や制度を知ってもらうことを目的に、法学部の教員３人が１年生の３クラスで講義。動物愛護法や湿地の保護に関する国際的な取り決め「ラムサール条約」、生態系を守る法律の枠組みなどを解説しました。終了後には、よりよい授業の実現に向けて、同校の教員と意見を交換しました。

東海大学サテライトオフィス地域連携講座 1月のご案内 受講料無料

小田急線「東海大学前駅」徒歩1分にある東海大学サテライトオフィスでは、「To-Collaboプログラム」を推進する地域貢献活動の場として、地域連携講座を開講しています。地域の皆さまと考え、協力し、地域と大学の交流の活性化を目指しています。皆さまの参加を心からお待ちしています。

◆シリーズ グローバルカフェへの誘い～東海大学が開く魅惑の世界

さまざまな国・地域から来ている留学生が自国を紹介します。その国の文化や生活など、普段の報道やインターネットだけでは知り得ない話を直接聞いて、世界を広げて見ませんか？

日時：1月17日（土）14:00～15:30　サウジアラビア

◆シリーズ 子どものこころの理解と対応～第2回：思春期編～

日時：1月15日（木）15:00～16:30／**講師：**芳川玲子教授（文学部心理・社会学科）／思春期の子どもの育ちを心理面から解説し、対応を考えていきます。

◆芸術学科公開講座受講生作品展

日時：1月21日（水）～1月24日（土）10:00～17:00（24日は16:00まで）／教養学部芸術学科主催の「大学で学ぶ、芸術を学ぶ。芸術学科公開講座」の受講生が製作した版画や陶芸作品を展示するとともに、音楽講座の様子などを映像で紹介します。

【東海大学サテライトオフィス地域交流センター】☎0463-78-5188　http://www.u-tokai.ac.jp/satellite/

リレーエッセイ

地域からの声　地（知）の拠点――「To-Collabo」への期待

港区高輪地区総合支所
協働推進課
野澤靖弘 課長

1963年設置の東海大学短期大学部［高輪］が2008年に情報通信学部へと姿を変え、14年にはエクステンションセンターが大学直轄となるなど、高輪校舎が長足の進歩を遂げる中、港区は東海大学と連携協定を締結し、相互資源の活用により地域社会・学術研究の発展へ寄与することとなりました。港区と東海大学とは、これまでにも学生のボランティア活動などさまざまな協働活動を行ってまいりましたが、締結を契機に半年足らずの間で複数の新たな協働事業を発進させることができました。

高輪地区は首都のコアとして開発圧力にさらされながらも、豊かな緑と江戸時代から引き継ぐ歴史的・文化的資産に恵まれた住みやすい街です。それ故に、まちづくり、地域防災、安全・安心、住民自治といった面では、高輪地区特有の課題も抱えています。これら諸課題の解決には、住民と自治体という古典的資源に加え、法人や在勤・在学者など新たな資源の参加が要となります。

東海大学という地（知）の拠点との連携を強力に推進することにより、港区の21世紀を展望した将来像である「安らぎある世界都心・MINATO」の実現に向けた取り組みを、一歩一歩着実に進められるものと期待しております。

文部科学省　平成25年度「地（知）の拠点整備事業」採択 「To-Collaboプログラムによる全国連動型地域連携の提案」

全国にキャンパスを有する大学ならではの「全国連動型地域連携活動」を柱に、地域特有の問題や共通課題を各校舎の学部、学生、研究者が共有し協力して解決策を見いだす取り組みです。To-Collabo（トコラボ）とはTokai University Community linking laboratoryの略称で、日本全国に広がる総合教育機関の高等教育拠点である東海大学（Tokai University）の特色を生かした教育・研究活動と地域をつなぐ（Community linking laboratory）ことを示しています。

『To-Collabo通信』vol.6（2014年12月号）

発行：東海大学To-Collabo推進室　URL：https://coc.u-tokai.ac.jp/
〒259-1292　神奈川県平塚市北金目四丁目1番1号
TEL：0463-50-2406（直通）／FAX：0463-50-2034／E-mail：coc@tsc.u-tokai.ac.jp
Facebook：https://www.facebook.com/tokai.coc

東海大学が育てる「4つの力」
「自ら考える力」「集い力」
「挑み力」「成し遂げ力」
イメージキャラクター　**リッキー**